特集

ちょっと待って！そのまま捨てて、大丈夫？

問合せ　環境課
（☎372-3311・内線4104）

市のごみ処理事情

生活する上で、毎日のように出るごみ。何気なく普通ごみとして捨てていませんか。適切に分別しないと、埋め立てるごみが増えてしまいます。

皆さんは、自分が捨てたごみがどこへ行くか知っていますか。市では、普通ごみと破砕しないごみを埋め立てて処理しています。現在、千歳市など2市4町合同で、平成36年度からの稼働に向け、焼却処理施設の建設準備を進めています。この施設ができると、ごみを焼却できるようになり、埋め立てるごみを減らすことができます。

平成27年に整備した最終処分場を使うことができるのは、10年間と限りがあります。ごみの量が増えて10年たたずに最終処分場がごみでいっぱいになってしまったら、私たちが捨てたごみはどこへ行くのでしょうか。

混ぜればごみ、分ければ資源

最終処分場を少しでも長く使うためには、ごみを減らす必要があります。そのために毎日少しずつ取り組むことができるのが、ごみの分別です。資源ごみは、普通ごみと混ぜるとそのまま埋め立てられてしまいますが、適切に分別することで資源に生まれ変わることができます。

紙パックやペットボトルなど汚れが付いているごみは、水ですすいでから出す必要があります。せっかく分別しても、汚れているものは収集することができません。適切な処理ができるよう、ご協力をお願いします。

資源ごみリサイクルの一例

紙製容器包装 → 段ボール	プラスチック製容器包装 → 日用雑貨
びん → 再生びん	アルミ缶 → アルミ缶
スチール缶 → スチール缶	ペットボトル → 衣類
紙パック、雑誌など → コピー用紙	乾電池 → 金属資源
蛍光灯・体温計 → 水銀	生ごみ → 堆肥

生ごみは指定ごみ袋に

生ごみの分別収集は平成23年4月に開始しました。分別された生ごみはバイオガス化処理し、発生したガスを施設の燃料として使用。さらに残ったものは乾燥おでい肥料「あしるのめぐみ」として農地などに還元されます。適切に分別収集することで、燃料や肥料に生まれ変わるのです。

しかし、台所で出る全てのごみを生ごみとして出せるわけではありません。あらためて、分別について確認しておきましょう。

生ごみとして出せるもの

●野菜や果物の皮・芯・種
●茶がら
●魚の骨・内臓
●カニ・エビの殻
・・・など

生ごみとして出せないもの

●卵の殻
●貝殻
●トウモロコシの皮
●たけのこの皮

→ **普通ごみとして出しましょう。**

市のごみの分別は良好な状態が続いていますが、まだまだ資源ごみとして出せるごみはたくさんあります。

市には、新たに造成できる最終処分場用地がほとんどありません。適切にごみを分別し、埋め立てるごみを減らすことで、できるだけ最終処分場を延命させましょう。

生ごみ分別のポイント

●よく水分を切ってから指定ごみ袋に入れると、ごみの容量を減らすことができ、腐敗の防止にもなる
●魚などの特に臭いが気になるものは、ポリ袋に入れて小分けにする
●冷凍庫やふた付きバケツに入れ、たまってから指定ごみ袋でまとめて出す
●茶がらは、乾かしてから捨てる

市では「朝の生ごみ啓発活動」を行っています。平成28年度は、5月から11月まで、分別の必要性やポイントなどをお知らせするチラシを配布しました。

今後も場所を変えながら活動します。ごみの分別についての意見などを聞かせてください。

環境課　志村龍之介

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

2020年に東京で開催されるオリンピック、パラリンピックの入賞メダルの材料として、不要になった小型家電に含まれる金属を活用することになりました。市もこの取り組みに参加しています。

詳しくは市ホームページ「くらしの情報→ごみ・リサイクル→トピックス」をご覧ください。

主催　東京2020組織委員会

小型家電回収ボックスなどの設置場所が変更になりました

市役所1階の階段裏にあります。ぜひご利用ください。

市のグリーンな未来を目指して

環境課長　志村敦

市では、限りある埋立地を少しでも長く使うため、そしてリサイクルのために、生ごみや資源ごみの分別促進に取り組んでいます。

昨年度から、環境課職員がごみステーションで「朝の生ごみ啓発活動」を行っています。市民の皆さんへごみの分別に関する意見なども聞いていますので、見かけた際は気軽に声を掛けてください。

生ごみの分別は、市内の事業者にもお願いしています。事業所に説明に伺い、業態に合った分別や排出方法を一緒に考え、ごみの減量につなげています。

ごみの課題は、市全体で取り組んでいかなければいけません。市のクリーンな未来を目指して、ご協力をお願いします。